

幼穂を確認し、1回目穂肥を遅れずに施用しましょう。

【出穂期予想と穂肥時期のめやす】

- 幼穂形成期や出穂期はほ場間で差があり、今後の天候によっても前後します。
各ほ場で幼穂確認を行って出穂期を予想し、穂肥の適期を判断しましょう。
- 収量を確保するため、1回目の穂肥は遅れずに施用しましょう。
- 登熟向上を図るため、2回目の穂肥は必ず施用しましょう。

表1 幼穂形成期及び出穂期の予想 (長岡・平場地域 令和3年6月21日現在)

品種名	幼穂形成期	出穂期	施肥時期のめやす (月/日、()は出穂前日数)	
			1回目	2回目
ゆきん子舞	7月3日	7月25日	6/30~7/2 (25~23)	7/11 (14)
つきあかり	7月3日	7月25日	6/30~7/2 (25~23)	7/11 (14)
あきだわら	7月21日	8月13日	7/19~7/21 (25~23)	7/30 (14)
ゆきみらい	6月27日	7月19日	6/26 (23)	7/6 (13)
(参考) コシヒカリ	7月12日	8月4日	7/17~7/20 (18~15)	7/25 (10)

注) 適用移植期(稚苗) : 早生品種5月1~5日、中晩生品種5月10~15日

【穂肥施用時の葉色と穂肥施用量】

- 収量・品質を確保するために、適正な施肥により葉色を維持しましょう。

表2 葉色のめやすと施用量

品種名	葉色のめやす (SPAD)			施用量 (N kg/10a)			出穂期まで保つ葉色
	1回目	2回目	出穂期	1回目	2回目	合計	
ゆきん子舞	37~39	36~38	36~38	3~4	2~3	6	36以上
つきあかり	41~46	42~46	40~42	3~4	2~3	6	40以上
あきだわら	38~41	38~40	38~40	3~4	2~3	6	38以上
ゆきみらい	41	43	44	3	2	5	—

- 1回目の穂肥施用前に、葉色が極端に淡くなった場合は、幼穂が形成されたことを確認したら直ちに穂肥を施用しましょう。

【施用例】 1回目 : 2kg/10a、2回目 : 2kg/10a、3回目 : 2kg/10a

- 全量基肥施肥体系でも、出穂期の葉色がめやすを下回ると予想される場合は、窒素成分で2~3kg/10aをめやすに追肥しましょう。

問い合わせ先
長岡農業普及指導センター
 電話 0258-38-2554
 E-mail ngt111440@pref.niigata.lg.jp